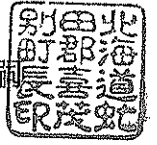




平成19年5月8日

国土交通省道路局長 様

北海道虻田郡喜茂別町長 菅原章



中期的な計画の作成にあたっての意見について

新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、北海道でも名だたる豪雪寒冷地そして国道2本が通る2,600名程が生活する喜茂別町の長として、道路特定財源の見直しについて意見を述べさせていただきます。

まず、特定財源がストレートに一般財源化され、本来の目的が霧散される心配が多少なりとも回避されるであろう期待が得られたことは、本町にとって幸いなことと思っております。

しかしながら、中期計画策定にあたっての基本方針4点について重点化、効率化や他との連携、国民各層に聴きながら作成など、非常に抽象的で漠とした感じが心配でもあります。

地方分権をテーマに国と地方が議論する中で地方のたたずまいが崩れ都市と地方の格差、弱者の切り捨てがおこなわれていますが、この財源議論の中でも実行されるのではないかという猜疑があります。決して同じような結果にならないようお願いしたいものです。

優先度の高い道路政策についてであります。その前にこれまでの高速道を含めた道路整備計画が真に必要なものより政治主導による無駄も含まれていることも忘れてはならないでしょう。まずその無駄について整理する必要があります。

この現実を踏まえ、今後の自然保護、災害を想定し均衡ある国土の発展、

企業や機関の危険の分散や一次産業の適切な保護を考慮すべきと考えます。

これらを背景とするとき、これまで以上に日本の背骨としての高速道路の充実、特に未完成地域である北海道について、いかにも中途である現状を本州なみに整備して頂きたいと思います。

また、一般国道を広く国土を支える肋骨として明確に位置づけ再整備する必要があります。単に予算の都合で実施される整備と揶揄されるのではなく、それぞれの道路に目的を持たせた道路政策が求められると考えます。

本来は、特定財源の範囲によって道路整備が成されるものと信じておりますが、時代の要求が優先度を求めるとしても、せめて住民生活地域活動を尊重した上で、先に述べた現実を踏まえた優先度を考慮し、政策として頂きたいと願います。

次に効率化についてですが、本町においては、様々な事業において効率を優先させており、その成果もみえてきているところです。よって基本方針に期待するところは大きいのですが本町の反省点として、効率化の追求によって弱者への配慮や危機対応に支障が出ざるを得ない場面が多くなっており、心配するところです。

本町としても財源だけのことで言えばそれなりに効率的であると思っておりますが、その分不安が増しているのも現実です。

よって、中期計画でいう効率化が、弱者を忘れ、自然災害や国際的危機に的確に対応できないようなものであってはなりません。

一般的な指摘ではありますが、連絡、連携網としての道路整備についても同様に考えますので、コスト縮減だけで効率化を急ぐことのないようお願いいたします。

最後に、本町における事情を優先した意見ではありますが、一点目として、交通安全を願うことから、これまで以上の道路整備、改良を行ってほしい。国道2路線があるため毎年死亡事故があり、その対応に警察をはじめ各関係機関と連携、強化が必須となっております。

近年の道路改良によって事故の減少傾向が認められるので、原因として道路状況、管理状況の充実が交通安全に役立っていることは明白と思えますの

で計画の中には交通安全対策を上位に明示してもらいたいと思います。

二点目として、除雪対策についてですが、豪雪地帯としてこれまでも特別な対応を実施していただいたと思いますが、今後のコスト縮減等の議論において、除雪・排雪対策を引続き願うものであります。

本町には、これまで救急患者を受け入れる病院がありましたが、医療改革のあおりで診療所に格下げし対応しております。

この影響により救急の搬送にとって道路の重要性は一段と増してきております。また、今後各学校の統廃合により、通学路確保が課題となり、鉄路の無い町村においてはなおさら道路の重要性を感じているところです。

これらの地域実情が、これまでの地域格差の容認の傾向からして、道路特定財源の見直しによって、本町のような地域が切り捨てられることの無いよう強く願うものです。

また、中期計画作成にあたっては、十分に留意していただきたいと思っております。

以上、中期的な計画の作成にあたっての意見といたしますが、意見徴収や改革が将来の充実した安心、安全につながるよう関係される皆様のご努力に心からご期待を申し上げます。